

# 連体修飾構造から見た形容詞の多義性について

—形容詞「キツイ」を例として—

毛 勇・曹 捷平\*  
(香川短期大学・\*西安外国語大学)

はじめに

現代日本語における多義語の教育・研究分野において、近年来多数の理論モデルとその研究成果が見られた。筆者らもその理論モデルを吟味、踏襲しながら、第一報として、コア理論を用いて形容詞における多義語の解析を試み、非日本語母語話者に多義形容詞を教授する時、その背後にあるコア語義をどのように認識させ、把握できるようにするかを提示した<sup>1)</sup>。しかし、語彙レベルのみからでは、時には多義語のコア語義を把握できないこともあることに気が付き、その後、引き続き新たなアプローチとして、カテゴリー理論により、連体修飾文という文レベルにおける形容詞に修飾された名詞のカテゴリー化から形容詞の多義性を探究した<sup>2)</sup>。それと相まって、横山・三ツ木 (2014) が「コア理論ではコアミーニングを文脈に埋め込んで意味調整を行い、文脈に応じた語義(周辺の意味)を導き出すという認知的な処理は必然的に学習者に委ねられることになる。」<sup>3)</sup>と指摘している。この論点に立脚すれば、理論上の推定として、コア語義が文脈に埋め込まれており、多義語の語義を調整しているので、文脈によりその多義語の多義性理解についてはそのコア語義を抉り出すことができると思われる。

本稿は、その実証研究として、コア理論とカテゴリー理論およびセマンティックドッキング理論とのそれぞれの関係性を基本問題意識とし、カテゴリー

理論とセマンティックドッキング理論を援用して、名詞カテゴリーとセマンティックドッキング構造の解析を通して、文脈に埋め込まれた多義形容詞のコア語義を究明することを試みるものである。なお、ケーススタディーとして、常用形容詞「キツイ」+名詞である連体修飾構造に焦点を合わせることにする。

## I. 主要な理論の概観

### A. 「形容詞+名詞」である連体修飾構造の名詞カテゴリー理論

「形容詞+名詞」である連体修飾構造においては、複数の名詞が同一形容詞によって修飾されているので、その複数の名詞間に必ず何らかの共通性があると推測され、一つのカテゴリーとして認められる。そして、論理上このカテゴリーはプロトタイプのメンバーと周辺メンバーからなっており、プロトタイプのメンバーと周辺メンバーは、それぞれの意味的特徴を持っていながら、部分的に類似性や隣接性に基づいて共通していると考えられる。つまり、形容詞に修飾された名詞カテゴリーの名詞同士は、共通的な意味属性を持っており、意味ネットワークを形成していると考えられる<sup>4)</sup>。

### B. 「形容詞+名詞」である連体修飾構造のセマンティックドッキング理論

この理論の主な論点は、語彙間の接続する条件として、連体修飾構造になる場合、すくなくとも1つ或いは1つ以上の同一意味的特徴を持っているはずである。そうでなければ、そのような構造自身が存立しないはずである<sup>5)</sup>。この観点に立てば、「形容詞+名詞」である連体修飾構造の場合、その形容

平成26年12月26日受理

連絡先 〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地

香川短期大学 経営情報科

TEL 0877(49)8046 FAX 0877(49)8046

Email mao@kjc.ac.jp

詞と複数の名詞の間に、それぞれ一致した意味的特徴を持っていないと考えられる。つまり、「形容詞＋名詞」である連体修飾構造には、形容詞と名詞がそれぞれ複数の異なった意味的特徴を持った上、両方の複数の意味的特徴のうち、一致しているものがあるからこそ、両方が接続されるということになる。その一致した形容詞の意味的特徴と名詞の意味的特徴は、セマンティックインタフェース (semantic interface) と呼ばれ、「形容詞＋名詞」である連体修飾構造を形成するには重要な役割を果たしている。また、形容詞と名詞が接続されるプロセスは、セマンティックドッキング (semantic docking) と呼ばれる。前項の形容詞と後項の複数名詞とのセマンティックドッキングを図1のように表すことができる。

### C. 「コア」理論

田中 (2004) は、「コア」が文脈依存から脱文脈化に至る学習における一般化の過程に注目した学習の産物であると規定した。換言すれば、「コア」のコンセプトは、ほかでもなく、文脈に依存しないことである。 (「context-free」あるいは「context-independent」の意味を指す。)

「コア」は a.用例の最大公約数的な語義であり、かつ b.多義語の語義全体を捉える概念である (たとえば、おぼろげな輪郭であったとしても)。「コア」のコンセプトを分かりやすく提示すると、図2のように円錐の頂点として捉えることができる。すなわち、円錐形の円 (底面) の大きさは語義の範囲を示しており、円が大きくなればそれだけ、コアの頂点も高くなり、コアそのものの抽象度も増す。底面には、文脈に依存した (context-sensitive) 語義群が

表され、中間層には、文脈横断的な語義群が示され、そして頂点においては、脱文脈的なコア語義が示されている<sup>7)</sup>。

### II. 「キツイ＋名詞」である連体修飾構造の名詞カテゴリー

上述した主要理論に基づき、われわれは、まず形容詞「キツイ」に修飾された複数の名詞を一つのカテゴリーとして設定し、このカテゴリーを構成したメンバーである複数の名詞を分析素材として確認してみることにする。

なお、分析素材の出所は、Webで公開された『NINJAL-LWP for BCCWJ』というコーパスによるものである<sup>8)</sup>。作業方法としては、まず「キツイ」をキーワードとして検索し、そして「グループ別」の下に、「キツイ＋名詞」というパターンを調査した。結果として、形容詞「キツイ」に修飾された名詞の有効用例147例が得られた。この147例の名詞をその意味的特徴の視点より、体系的に整理・分類を加え、次のような9種類の意味的特徴にまとめた。

- A) 体感・触覚にかかわる名詞：靴、ガードル、コルセット、ブラジャー、ワイシャツ、下着、襟元、冷房、冷氣、風当たり、お湯、シャワー (12例)
- B) 視覚にかかわる名詞：目、眼差し、眼、顔、表情、顔立ち、顔付き、色合い、藍、ハイライト (10例)
- C) 聴覚にかかわる名詞：言葉、口調、言い方、声、話、一言、メッセージ、問い、回答、恫喝、物言い、言、言動、訛り、語調、ジョー

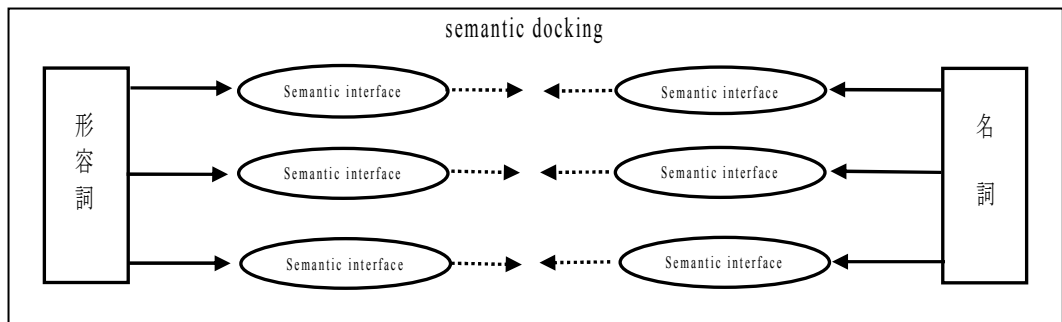


図1 趙, 儲 (2013) におけるセマンティックドッキング概念図<sup>6)</sup>

ク、表現、質問、口、皮肉、お達し、批判、批評、評価、否定（25例）

D) 嗅覚にかかわる名詞：匂い、香水、タバコ、香り、香、煙、花、薬（8例）

E) 味覚にかかわる名詞：フード、白酒（2例）

F) 心理感覚にかかわる名詞：感じ、思い、気、苦しみ、嫌味、印象、焦燥（7例）

G) 場所にかかわる名詞：場所、箇所、土地、巢、距離、正門、坂、坂道、カーブ、コーナー、山道、コース、上り坂、山、ところ、コーナリング、スコープ、屋根、島、海岸、角度、リンクス（22例）

H) 人物・行動にかかわる名詞：男、相手、性格、態度、くせ、仕事、登り、練習、記事、運動、トレーニング、作業、治療、重労働、スポーツ、レッスン、レパトリー、ローテーション、修行、労働、勝負、試合、取り締まり、取調べ、商売、夜業、職、プレス、漁、通学、締め付け、抱擁、抵抗、流れ、移動、姿勢、戦い、展開、吸引、脅かし、仕打ち（41例）

I) 外部制限にかかわる名詞：お仕置き、罰則、法

律、裁き、制度、設定、布令、条件、立場、状況、金額、スケジュール、行程、日、季節、とき、日々、時代、時期、秋（20例）

### Ⅲ. 「キツイ+名詞」である連体修飾構造のセマンティックドッキング

上述した「形容詞+名詞」である連体修飾構造のセマンティックドッキング理論によると、「キツイ」は複数の名詞の間に一致した意味的特徴を持っているからこそ、両者が接続することができるのである。従って、「キツイ」と接続された名詞メンバーの意味的特徴を抽出すれば、接続した「キツイ」の意味特徴も知ることができると考えられる。つまり、「キツイ+名詞」である連体修飾構造の中で、9種類の名詞と接続した形容詞「キツイ」も、その9種類の名詞と呼応できる意味的特徴があり、故に、同等のセマンティックインタフェースを持っていることに違いない。従って、われわれは次のように、「キツイ」の意味的特徴を確認するために、「キツイ」とその9種類の名詞の間のセマンティック

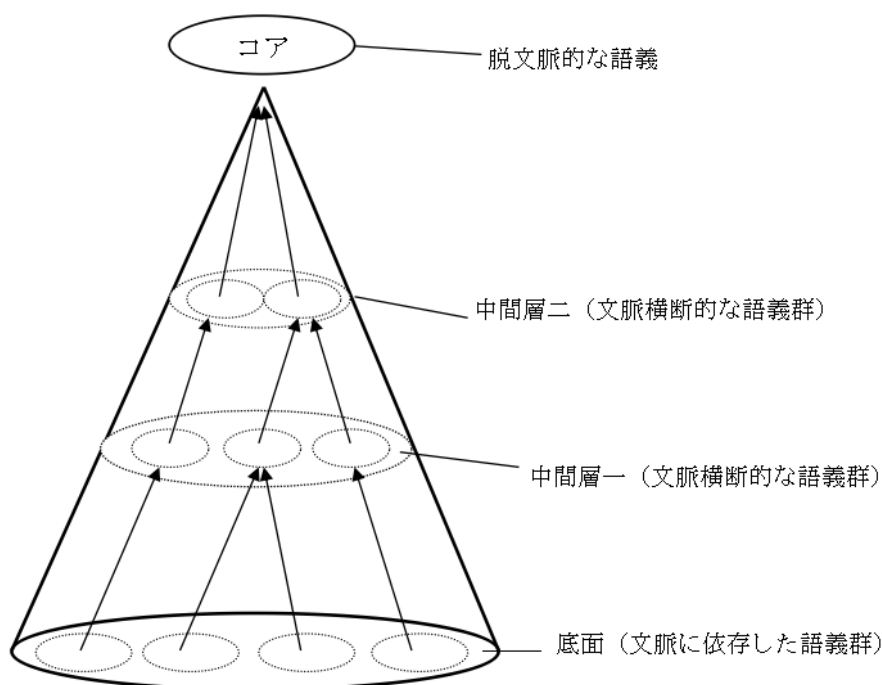


図2 毛、曹（2013）におけるコア理論概念図

ドッキングに対し、主な例文を挙げながら実証分析してみる。

#### セマンティックインタフェース①体感・触覚描写

- (1) あんまりキツイシャワーで洗うと痛いですよー。

(Yahoo! 知恵袋 2005)

- (2) 女性に限らないですけど、男性だって結構キツイ靴を履いてますからね。

(『身体が知らせる危険信号』石川恭三 日本テレビ 1996)

種類①例文 (1) の名詞「シャワー」は、「熱くて耐えかねる」意味合いがある。例文 (2) の「靴」は身に付けるものであり、触覚として緊密すぎてゆとりがなく、圧迫感を感じることである。これらの名詞は「キツイ」と接続することによって、共通的な意味的特徴を抽出することができるようになったのである。従って、形容詞「キツイ」が種類①の名詞と組合せて、「触覚としてゆとりがなく、耐えられなく、圧迫感を感じたもの」と言う意味を表している。

#### セマンティックインタフェース②視覚描写

- (3) お国は侮辱を感じた。キツイ目になって見つめていた。やっと源昌房は笑いやんだ。

(『二本の銀杏』上 海音寺潮五郎 文藝春秋 1998)

- (4) その横顔は、怒ったように、きつい表情を覗かせていた。

(『早春物語』赤川次郎 角川文庫 1985)

種類②の名詞「目」、「表情」は、顔だちや色など視覚を表すものである。これらの名詞は「キツイ」と接続すると、「圧迫感を感じた目や顔の表情や色」と言う意味を内包しているようである。

#### セマンティックインタフェース③聴覚描写

- (5) 一連の発表が終わるなり、竹中恵美子教授は発表した学生にキツイ言葉をかぶせた。

(『歳月は流水の如く』姜在彦・竹中恵美子 青丘文化社 2003)

- (6) 高二の子にはきつい話だった。

(『人は涙とともに蘇る』加藤諦三 経済界 1996)

種類③の名詞は例 (5)「言葉」や例 (6)「話」のような聴覚にかかわる音声及びその話す内容や話し方を表すものである。これらの名詞は「キツイ」と接続することによって、「圧迫感を感じた音声や話す内容、話し方」などの意味を表すことができる。

#### セマンティックインタフェース④嗅覚描写

- (7) 灰色のフィルターを通して、匂いは伝わってくるくらいだから、相当キツイ匂いである。

(『灰色の仮面』折原一 講談社 1992)

- (8) きつい香水のせいで、食べ物に香水が混じっているような味になる事がありますね。

(Yahoo! 知恵袋 2005)

種類④の名詞は「匂い」や「香水」のような、刺激的な匂いがするものであり、「キツイ」と接続すると、「圧迫感を感じた匂い」などの意味を持っているため、「キツイ」とのセマンティックインタフェースは「圧迫感を感じた匂い」である。

#### セマンティックインタフェース⑤味覚描写

- (9) 中国では以前は、茅台酒に代表されるようなキツイ白酒で乾杯というのが一般的だったが、いまでは宴席には、白酒のお猪口に加えて、必ずワイングラスが用意されている。

(<http://gendai.ismedia.jp/articles/-/1603>)

種類⑤の名詞は、味覚にかかわるお酒など、強い味がする食べものや飲み物である。これらの名詞は「キツイ」とのセマンティックインタフェースは「圧迫感を感じた味やそういう味がするもの」である。

#### セマンティックインタフェース⑥心理描写

- (10) サングラスをかけたものになった。そのせいか、男の顔は、かなり、キツイ感じだった。

(『十津川警部の挑戦』上 西村京太郎 実業之日本社 1988)

- (11)ただしその場合ボニングは、モントゥーにつくよりも、ずっときつい思いをしただろうけれど。

(『レコードはまっすぐに』 ジョン・カルショール  
学習研究社 2005)

種類⑥の名詞は、「感じ」や「思い」のような主に人間の心理感覚を表すものである。これらの名詞は「キツイ」と接続すると、「圧迫感を感じた心理感覚」と言う意味になる。

#### セマンティックインタフェース⑦場所描写

- (12)平坦だった道が、急なカーブを描いて曲がり、そこからはかなりキツイ坂道になっている、その曲がり角、そこが昔、馬を焼いたと言う場所だった。

(『楽園の日々』 深町瑠璃子 新風舎 2005)

- (13)コース中盤にある坂を下りきったところのキツイコーナーや、ゴール前にある連続ヘアピンが最大の難関だ。

(『グランツーリスモ3 A-spec公式ガイドブック』 講談社 2001)

例 (12), (13) のように、種類⑦の名詞は、道やコーナーなど場所を表すものである。これらの名詞は「キツイ」と接続すると、傾斜の程度を一層強調することができ、「圧迫感を感じた傾斜を持つ場所」になる。

#### セマンティックインタフェース⑧人間行動描写

- (14)別れにおいては、どんなきつい男より、優しい女のほうがまだ峻烈である。

(『ひとひらの雪』 渡辺淳一 文春文庫 1983)

- (15)これを引っ張るのがいちばんキツイ仕事でした。こんなキツイ漁はなかったね。

(『苦あり楽あり海辺の暮らし』 川口祐二 北斗出版 2002)

種類⑧の名詞は例文 (14), (15) のような、人物や行動を表すものである。これらの名詞は、「キツイ」と接続すると、「それをこなしたり、耐えたりするのが容易でなく、圧力がある」などの意味合い

が出てくる。

#### セマンティックインタフェース⑨外部制限描写

- (16)私はこの罰則はかなりキツイ罰則だと思っています。

(『国会会議録』 第104回国会 1986)

- (17)イギリスのエリザベス女王は、モーレッツ社長もおよばないぐらいの、分きぎみの、キツイ日程をこなされます。

(『ちょっとキザですが』 磯村尚徳 講談社 1975)

種類⑨では、例文 (16) の名詞「罰則」は、法律など規則を表すものである。「キツイ」と接続すると、「耐え難いほど厳しい規則」などの意味になる。例文 (17) の名詞「日程」は、時間制限を表すもので、「キツイ」と接続すると、ほとんど「時間の制限が厳しくて耐え難い」などの意味を持っている。

上述した分析から分かるように、「キツイ」と接続した連体修飾構造中の名詞は9種類の名詞からなっている。それらの名詞と接続するため、形容詞「キツイ」も同等の9種類のセマンティックインタフェースを備え、それぞれ9種類の名詞と一致した意味的特徴を持っているのである。この観点から判断すると、形容詞「キツイ」は複数の語義を持っている多義語に違いないと考える。

#### IV. 「キツイ」のコア語義

上述した通り、形容詞「キツイ」が多義語である以上、われわれは、コア理論に照らして次のように見ることもできる。つまり、多義形容詞「キツイ」の語義全体を一つの円錐形として捉えることができ、「キツイ」の語義を底面（文脈に依存した語義群）、中間層（文脈横断的な語義群）、コア（脱文脈的な語義）と分けて示すことができる。

なお、形容詞「キツイ」の多義的語義が連体修飾構造から、短文レベル以上のコンテキストによってはじめて考察可能になると考え、「キツイ」と接続した連体修飾構造を手がかりとして「キツイ」のコア語義を究明してみることにする。



上述したように、「キツイ＋名詞」である連体修飾構造では、「キツイ」に修飾された複数の名詞は一つのカテゴリーとして位置づけられ、それぞれの意味的特徴を持っていながら、類似性や隣接性に基づいて共通している意味属性を有し、意味ネットワークを形成していると思われる。論理上、このカテゴリーはプロトタイプのメンバーと周辺メンバーからなっており、プロトタイプのメンバーと周辺メンバーは、段階的にカテゴリー内に分布しているのである。そして、「キツイ」からの修飾や制限などの働きを受け、「キツイ」と接続した名詞も多義語の多義的語義のように円錐形の形で段階的に分布していることも考えられる。つまり、「キツイ＋名詞」である連体修飾構造の複数名詞をコア理論に基づいて把握することもできるのである。この名詞同士からなっている円錐形には、底面に位置するメンバーが上記のコアパス検索から得られた147の名詞からなっており、中間層に位置するメンバーが147の名詞に整理・分類などの作業を施すことにより得られた文脈横断的な意味的特徴であり、頂点に位置するメンバーが中間層の文脈横断的な意味的特徴から更に抽象的に抽出した「キツイ」と接続した名詞カテゴリーを全体的に捉えることができる脱文脈的な意味的特徴である。

具体的に言えば、「キツイ＋名詞」である連体修

飾構造の中の複数名詞は次のように構成している。まず、底面メンバーは、上記のコアパス検索から得た147の名詞からなっている。そして、中間層Ⅰは、147の名詞により帰納された9種類の名詞になる。それらの意味的特徴は、上述したA)～I)の通りである。また、中間層Ⅱは、中間層Ⅰの9の意味的特徴に基づいて更に抽象化し、4つの意味的特徴で構成され、それぞれA), B), C), D), E), F)から「人の感覚(六感)にかかわるもの」、G)で「場所にかかわるもの」、H)で「人物・行動にかかわるもの」、I)で「外部制限にかかわるもの」に収斂していくのである。コアレベルの意味的特徴を括り出すと、「人の六感で描写されるもの」と「人及び物事に対する評価で描写されるもの」となる。言い換えれば、「キツイ」と接続した連体修飾構造の中の名詞は、凡そ「感覚と評価で描写されるもの」であると結論することができる。

最後に、われわれは、前述した連体修飾構造「形容詞＋名詞」のセマンティックドッキング理論にフィードバックすると、形容詞「キツイ」に修飾された名詞が「キツイ」と接続する条件は、両方が一致した意味的特徴を持っていなければならないという説を想起されたい。従って、形容詞「キツイ」のコア語義は、修飾された名詞カテゴリーのコアレベル意味的特徴と一致性が満たされ、「六感で耐え難

表1 「キツイ＋名詞」から見た「キツイ」のコア語義

形容詞		名詞カテゴリー			
	コア語義	コアレベルの意味的特徴	中間層Ⅱ	中間層Ⅰ	底面
キ ツ イ	六感で耐え難い様子	六感で描写されるもの	人の感覚(六感)にかかわる名詞群	A) 体感・触感にかかわる名詞群	147 の 名 詞
				B) 視覚にかかわる名詞群	
				C) 聴覚にかかわる名詞群	
				D) 臭覚にかかわる名詞群	
				E) 味覚にかかわる名詞群	
				F) 心理感覚にかかわる名詞群	
	評価で受け入れかねる様子	評価で描写されるもの	場所にかかわる名詞群	G) 場所にかかわる名詞群	
			人物・行動にかかわる名詞群	H) 人物・行動にかかわる名詞群	
			外部制限にかかわる名詞群	I) 外部制限にかかわる名詞群	

い様子」と「評価で受け入れかねる様子」ということが明らかになる。形容詞「キツイ」のコア語義は、この二つの側面からなっていることも、「キツイ」の多義性を証拠付けているのである。

このプロセスを明示すると、表1のようになる。

おわりに

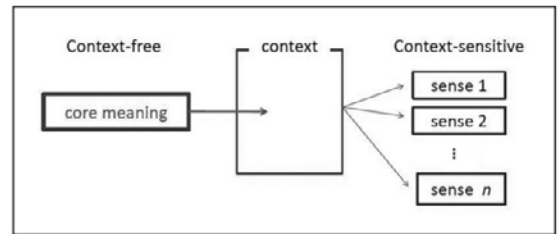
本稿各節を通して考察してきたように、コア理論と名詞カテゴリー理論およびセマンティックドッキング理論との間に緊密なロジックの関係性を持っていることが明らかになっている。われわれは、名詞カテゴリーとセマンティックドッキング構造の解析を通してアプローチすることにより、文脈に埋め込まれた多義形容詞のコア語義を究明することが可能であるという結論に辿り着いた。具体的には、ケーススタディーとして、常用形容詞「キツイ+名詞」である連体修飾構造に焦点を合わせることにし、まず、形容詞「キツイ」に修飾された複数の名詞を一つのカテゴリーとして設定し、カテゴリーメンバーとしての複数名詞の構成を『NINJAL-LWP for BCCWJ』から147例の名詞を獲得した。そして、「形容詞+名詞」である連体修飾構造のセマンティックドッキング理論に基づき、この147の名詞と「キツイ」とのセマンティックドッキングを分析し、両者が9のセマンティックインタフェースで繋がっていることを解明した。また、コア理論に基づき、その名詞のコアレベルの意味の特徴を確認し、一致したセマンティックインタフェースから、形容詞「キツイ」のコア語義を抉り出した。

このように、われわれは、名詞カテゴリー理論とセマンティックドッキング理論及びコア理論をセットで考え、同時に分析することにより、形容詞の多義性ないしそのコア語義が確認できたことは、多義形容詞の教育と研究に有意義な方法を提示したのではないかと考える。

## 注

- 1) 毛, 曹 (2013) を参照されたい。
- 2) 毛, 曹 (2014) を参照されたい。
- 3) 横山, 三ツ木 (2014) を参照されたい。両氏は

文脈調整を受ける多義語の語義を論じた時、田中他 (2006) の認知的処理を下図のように援用した。



- 4) 詳細は、毛, 曹 (2014) を参照されたい。
- 5) 趙, 儲 (2013) を参照されたい。
- 6) 邵 (2014) を参照されたい。
- 7) 詳細は、毛, 曹 (2013) を参照されたい。
- 8) <http://nlb.ninjal.ac.jp/search/>。『NINJAL-LWP for BCCWJ』は、国立国語研究所が構築した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を検索するために、国語研とLago言語研究所が共同開発したオンライン検索システムである。

## 参考文献

- 1) 松田文子, 白石知代 (2006) 「コア図式を用いた複合動詞習得支援のための基礎研究」『世界の日本語教育』16 pp.35-51.
- 2) 横山吉樹, 三ツ木真実 (2014) 「語の意味カテゴリー能力と多義語の語彙知識との関連性」『北海道教育大学紀要教育科学編』65 (1) pp.279-291.
- 3) 田中茂範, 佐藤芳明, 阿部一 (2006) 「英語感覚が身に付く実践的指導」『大修館書店』.
- 4) 毛勇, 曹捷平 (2014) 「カテゴリー理論による多義形容詞の一考察」『香川短期大学紀要』42 pp.1-10.
- 5) 邵敬敏 (1997) 「论汉语语法的语义双向选择性原则」『中国语言学报』(8).
- 6) 趙雅青, 儲沢詳 (2013) 「“高/深+N” 的组配及语义对接的管控」『语言教学与研究』2 pp.42-49.
- 7) 毛勇, 曹捷平 (2013) 「コア理論による現代日本語における多義語の解析について」『香川短期大学紀要』41 pp.1-11.

**A Study on Polysemous Adjectives  
from the Point of View of Adnominal Structure  
– Examples provided by the Adjective “kitsui”**

Mao Yong, Cao Jieping

**Abstract :** In order to discuss the polysemy of Japanese adjectives, as a study case, this paper mainly focus on adnominal structure, which is attributive modifier structure “kitsui + noun”. First, to set a multiple of noun that has been modified to adjective “kitsui” as one of the categories, a plural noun the arrangement as a category member is made up of 147 cases of nouns from the “NINJAL-LWP for BCCWJ”. Then, based on the semantic docking theory, Structure of attributive modifier in the “kitsui+N” adjective “kitsui” and the noun by nine semantic interfaces relative to pick up, both were elucidated that are connected by 9 semantic interfaces. Finally, based on the core theory can conclude the characteristic of the core meaning of a noun category. At the same time, with the core semantic feature of the noun category relative adjective “kitsui” at the core of the semantic can get easily, the matched semantic interface to gouge the core semantics of adjective “kitsui”.

**Keywords :** Adnominal structure “kitsui+noun”, semantic docking, semantic interface, semantic features, core semantic